児童における他者への感情調整方略が学校適応に及ぼす影響

○内田香奈子・山崎勝之

(鳴門教育大学大学院 学校教育研究科)

キーワード：感情調整、学校適応、児童

The effects of understanding and regulating others' emotions on school adjustment in children

Kanako UCHIDA, Katsuyuki YAMASAKI

(Graduate School of Education, Natuto Univ.)

Key Words: emotional regulation, school adjustment, children

目 的

感情は、我々の認知や行動へ様々な影響を与えることが報告されている (たとえば、Damasio, 1994)。このことから、各自が感情の存在を知り、理解し、その感情をコントロールする力を身につけることが、認知や行動面の適正化を促進し、ひいては健康や適応を導く可能性を持つといえる。

教育面においても同様である。Pekrun & Linnenbrink-Garcia (2014)は、教室内では教師と児童・生徒との間で多くの感情の交流が存在することを指摘しており、学校教育、とりわけ、児童の健康や適応の向上を目指す心理教育(予防教育)において、感情の機能を重視した教育が求められている。また、教室内で多くの感情の交流が存在するという指摘は、自分の感情のみならず、相手の感情への対応力が、子どもたちの健康や適応を導く可能性を示唆するものであろう。

本研究では、心理教育(予防教育)におけるアプローチ方法検討のため、児童の他者への感情調整力の有無が、後の学校適応に与える影響について、短期縦断的な検討を行った。

方 法

参加者

2 小学校 5, 6 年生を対象に実施した。最終的分析対象者は 56 名(男子 25 名、女子 31 名)であった。

測度

感情調整方略 児童用感情調整尺度 (The Understanding and Regulating Emotions Scale for Children (URES-C)) の他者感情対応方略版を使用した。この尺度は他者感情への対応力育成を目的とした予防教育プログラムの効果評価測定用に開発された。他者感情の同定、理解、対応の 3 下位尺度、各 3 項目で構成され、5 件法(1 まったくあてはまらない～5 とてもよくあてはまる)で回答を求めた。標準化過程においては高い信頼性と内容的妥当性の検証が完了している(たとえば、福田・内田・山崎, 2013)。

学校適応 楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U (Questionnaire Utilities) (河村ら, 2004)4～6 年生版を使用した。この尺度は学校生活意欲と学級満足度の 2 側面から成る。このうち、学校生活意欲は友達関係、学習意欲、学級の雰囲気 の 3 下位尺度、各 3 項目、学級満足度は承認、被侵害の 2 下位尺度、各 6 項目で構成される。4 件法(まったくそう思うない～とてもそう思う)で測定された。なお、被侵害は得点化の際、逆転処理をした。

手続き

約 1 ヶ月の間隔を開けて、2 回測定を行った。自記式で実施され、URES-C、QU の順に測定された。実施は、各学校長、担任の許可を得て、研究実施者ならびに研究協力者が直接行った。なお、2 回測定後、他者感情への対応力育成を目的と

して、研究実施者、協力者、ならびに各学校関係者が 8 回に渡る予防教育介入プログラムを実施した。(介入効果とプログラムの詳細については内田・山崎, 2012, 2015; Uchida & Yamasaki, 2015 に詳しい)。

結 果

感情調整方略が、後の学校適応へ及ぼす影響を確認するため、Time2 の Q-U の各変数を従属変数、Time1 の URES-C の 3 変数を独立変数として、Q-U の変数ごとに、重回帰分析を行った。結果を Table1 へ示す。なお、各従属変数の Time1 での測定値を統制変数として独立変数に投入した(数値は割愛する)。男子は Time1 における他者感情の同定が、Time2 における友人関係の高さを予測していた。また、有意傾向ではあったが、Time1 の他者感情の理解が学校生活満足度の高さ、被侵害への低さを予測していた。女子は Time1 における他者感情への対応が、Time2 における学校生活意欲の高さを予測していた。また、Time1 の他者感情の理解が被侵害への低さを予測していた。

Table1 Predicting T2 School Adjustments via T1 Understanding and Regulating Others' Emotions

Variable	Source of school adjustments (β)						
	PS	PR	ML	CC	SH	A	R
Boys							
To identify others' emotion	.15	.43*	-.10	.03	.08	.26	-.05
To understand others' emotion	.20	.17	.19	.13	.37+	.26	.35+
To regulate others' emotion	-.05	-.27	.19	.01	-.18	-.28	-.05
R^2	.75**	.67**	.72**	.55**	.50**	.53**	.57**
Girls							
To identify others' emotion	-.07	.04	.02	-.10	-.08	.11	-.33
To understand others' emotion	.02	-.36	.16	-.02	.10	-.35	.57**
To regulate others' emotion	.55*	.40	.08	.36	.16	.43	-.05
R^2	.49**	.36*	.56**	.45**	.69**	.35*	.57**

PS: children's positive attitudes for school life, PR: peer relationship, ML: motivation to learn, CC: classroom climate, SH: children's satisfaction with their home-room classes, A: approval, R: rejection, T1: Time1, T2: Time2, + $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$.

考 察

以上のように、他者感情への調整方略が後の学校適応に与える影響は、被侵害においては男女で同様の結果がみられたが、その他の変数においては、性差が見られた。児童の学校適応力向上のためには、若干ではあるものの、性差を考慮した教育的アプローチの変容が必要である可能性が示唆された。また、予防教育プログラムにおいて、他者感情の理解や対応スキルを向上することが、児童においてどのような影響を及ぼすのかという点についても、性差も踏まえた詳細な検討が必要であろう。